

# 中間評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会 平成25年10月23日(水)

研究課題	クニマスの生態解明及び増養殖に関する研究	
研究期間	平成23年度～25年度	
	評価項目	平均点
	研究の進捗状況	4.4
	研究内容の妥当性	4.4
	目的達成の可能性	4.2
	期待される研究成果	4.4
	研究継続の必要性	4.4
	<b>総合評点</b>	<b>4.4</b>
<p>本研究は70年前に絶滅したと考えられていたクニマスが西湖で発見されたことから、その保護と活用のために近縁種のヒメマスを含む両種の生息環境及び生態を解明してヒメマス漁業とクニマス保護の両立に資すること、また人工繁殖と飼育技術の確立により、域外保全(人工飼育)及び養殖事業化を図ることを目的とする。</p> <p>これまでの結果により生態が解明されつつあり、学術的にも高い成果が得られてきている。研究の進捗状況は順調であり、目的達成の可能性も高い。現在のクニマスの生息地は山梨県だけであり大切な天然資源として今後も保全と生存の拡大に向けて研究の継続を望む。</p> <p>研究の実施にあたっては、生活史の調査における他の項目の追加、ヒメマスとの相互関係の解明について検討する必要がある。また代理親の利用は自然での可能性のある範囲で行ってほしい。将来的に田沢湖へ帰郷させるためにも生存環境の必要十分条件を明らかにしていくことも重要である。</p>		